

# ゆうただい君の手紙 (一部省略しています)

突然ですが、僕のお父さんは東電の社員です。

3月27日の日曜日の毎日小学生新聞の一面に、「東電は人々のことを考えているか」という見出しがありました。(元毎日新聞論説委員の)北村龍行さんの「NEWSの窓」です。読んでみて、無責任だ、と思いました。

みなさんの中には、「言っている通りじゃないか。どこが無責任だ」と思う人はいると思います。

たしかに、ほとんどは真実です。ですが、最後の方に、「危険もある原子力

発電や、生活に欠かせない電

気の供給をまかせていたこと

が、本当はとても危険なこと

だったのかもしれない」と書

いてありました。そこが、無

責任なのです。

原子力発電所を造ったのは

誰でしょうか。もちろん、東

京電力です。では、原子力発

電所を造るきっかけをつくっ

たのは誰でしょう。それは、

日本人、いや、世界中の人々

です。その中には、僕も、あ

なたも、北村龍行さんも入っ

ています。

なぜ、そう言えるのかとい

うと、こう考えたからです。

発電所を増やさなければな

らないのは、日本人が、夜遅

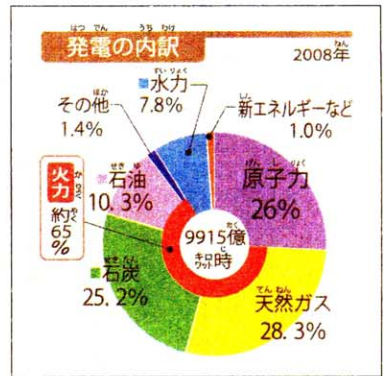
くまでスーパを開けたり、

ゲームをしたり、無駄に電氣



ゆうただい君が毎小編集部に送ってくれた手紙

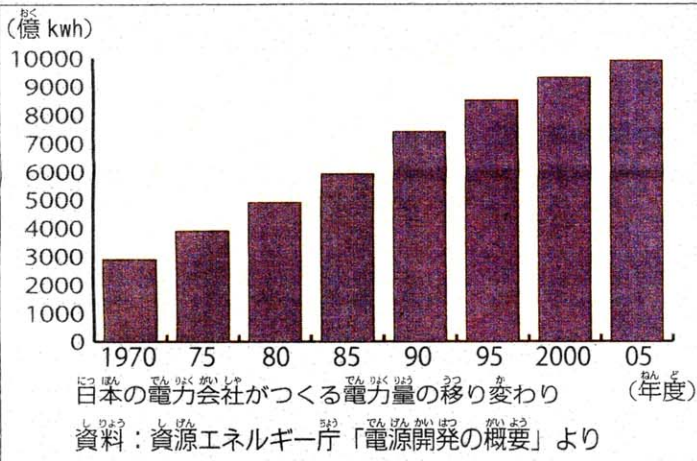
# ぼくは、みんなで話し合うことが大切だ、と言いたい



ならなかったのは、地球温暖化を防ぐためです。火力では二酸化炭素が... 水力では、ダムを造らなければならず、村が沈んだりします。

その点、原子力なら燃料も安定して手に入るし、二酸化炭素もありません。そこで、原子力発電所を造ったわけですが、その地球温暖化を進めたのは世界中の人々です。

そう考えていくと、原子力発電所を造ったのは、東電も含み、みんなであると言え、また、あの記事が無責任であるとも言えます。さらに、あの記事だけ



でなく、みんなも無責任であるので。僕は、東電を過保護しすぎるかもしれない。なので、こういう事態こそ、みんなが話し合っただけで済ませたいのです。そうすれば、なにかい案が生まれてくるはず。あえてもう一度書きます。ぼくは、みんなが話し合うことが大切だ、と言いたいです。そして、みんながこの津波を乗り越えていきましよう。